

Hongwanji Buddhist Mission of Australia

シドニー本願寺報

732 Pacific Highway, Gordon
PO Box 292 Lindfield (Sydney)
N.S.W. 2070 AUSTRALIA
Phone : (02) 9403-1256
Email : hbma@optusnet.com.au
http://www.hongwanji.com.au



来る8月12日に
今年度の盂蘭盆
会法要が勤めら
れます。浄土に
生れて往かれた
方々を偲ぶ中で
阿弥陀様への感
謝のお念仏を申
しましょう。お
昼は持寄りで
す。宜しく願
い申し上げます！ 合掌

もくじ

お盆法要ご案内	1
お盆のいわれ	1-2
お寺の予定表	1
仏教の授業	3
平和のマラソン	3
今月のことば	3
ようこそ	4
JCSフェイト	4
カウラ追悼法要	4
祥月の案内	4
ご 懇 念 録	4

2018年度のお盆法要を 共に勤めましょう！



グッテンビー師



渡部開教使

来る8月12日(日曜日)午前11時より、今年度の盂蘭盆会法要がシドニーの開教事務所にて勤められます。この法要には、アデレード在住のジョージ・グッテンビー師が新しい開教事務所に初めてお参りし英語の法話をされます。どうぞお楽しみに！お盆法要に初めてお参りされるゲストの皆さんを歓迎致しましょう！

盂蘭盆会法要では、既にお浄土に生まれて往かれた親しかった友人、家族に思いを馳せ、共に偲び、お念仏申しつつ、「歓喜会」とも言われるお盆のおいわれを聴聞させて頂きましょう。 合掌



お盆のいわれ



「お盆」は正式には、「盂蘭盆会(うらぼんえ)」という言葉方をしますが、この語源はインドのサンスクリット語、「ウランバナ」から来ています。その意味はと言いますと、逆さ吊りを意味する「到懸」です、と聞くとびっくりしてしまうことと思います。逆さ吊りですから頭を下にしてつり下げられているようなとても苦しいの事を言っているのです。という、何故それがお盆と関係が有るのかと想像されるかと思えます。いったい誰が逆さ吊りになっているのだと想像されることと思えます。しかし、その苦しみを受けている人が実際にいらっしまったのでした。それは、釈尊十大弟子の一人、神通力第一の目連尊者(もくれんそんじゃ)のお母様の事を言っているお話だったのでした。

『盂蘭盆経』によりますと、ある日、目連尊者が生前優しくお母さんが今どうしていらっしゃるかと思い、自分が修行で得た神通力を使いお母さんを捜しました。自分の愛するお母さんは天上



(2ページへつづく)

★ お寺の予定表 - Calendar ★

July	22 (Sun)	11:00 am	日曜礼拝/Sunday Service
	29 (Sun)	<	休 座 - No Service - >
Aug	5 (Sun)	10:00 am	Service of Respect at Cowra War Cemeteries
	12 (Sun)	11:00 am	盂蘭盆会 & 祥月/Obon & Shutsuki Service
			Guest: Rev G Gattenby [Potluck Lunch/持ち寄りのお昼]
	19 (Sun)	11:00 am	日曜礼拝/Sunday Service
	20 (Mon)		[本願寺報発行 / New Bulletin Issue]
	26 (Sun)	11:00 am	日曜礼拝/Sunday Service
Sep	2 (Sun)	11:00 am	九月祥月法要/September Shutsuki Memorial Service
	8 (Sat)	11-18:00	チャッツウッド日本祭 / Japan Festival in Chatswood
	9 (Sun)	11:00 am	日曜礼拝/Sunday Service





『亡くなられた方は、「いのちあるものは時が来ればどんなにこの世が名残惜しくても必ず死んでしまう日が来るのですよ。今自分が持っているものに満足し幸せを感じ、毎日を精一杯生きなさいよ」と身を持って教えて下さっているのです。急がなくてもいいことを急いだり、必要のないものを欲しがったりして、本末転倒(さかさま)になって生きている私たちに対して、「それで本当にいいんですか」と問いかけているのです。』

(本文より)



界にいると思い、一番上の世界を見て回りますが、どこにも見当たりません。そんなことはないと思いつつどんどん下の世界を恐る恐る見て行きますが、どこにもその姿はありません。最後にまさかと思いながら一番下の世界である地獄を見たところ、何と餓鬼道に落ちて骨と皮だけになっているお母さんを見つけたのでした。その時の目連の受けたショックは大変なものでした。しかし、何とかせねばと思い、愛しいお母さんを救うべく食べ物を食べさせようとするのですが、差し出した物は全て目の前で炎となって燃え尽きてしまい苦しみは増していくばかりでした。



目連は餓鬼道に落ちていたお母さんの元に駆け寄り、いくら食べ物を口に運んでも全て火に包まれてしまいたべることが出来なかったのです。

途方に暮れた目連はお釈迦様のもとへと行ったのでした。何故母があんな世界に落ちているのか、どうやったら救えるか相談したところ、お釈迦様は、目連にこう伝えられました。

「目連、お前には優しくかったお母さんではあったが、他の人と分かち合うことをしなかったためにお母さんは餓鬼道という地獄に落ちなければいけなかったのだよ。だが、目連、お前がお母さんに代わり、全ての縁ある人たちに食べ物を施すことにより、お前のお母さんは救われて行くであろう。」

その言葉に従い、夏の勉強会の終わった日に全てのお釈迦様の弟子たちを招待し、沢山の食べ物を施したのでした。みんなにご馳走を食べてもらい大変喜んでもらったので、それにより、お母さんが救われて行ったのを見届けて、目連も大いに喜び小躍りしたのでした。そして、それが盆踊りの起源となったのでした。みんなが喜びを分かち合ったと言うことでお盆のことを「歡喜会(かんぎえ)」とも言います。

今日、日本で一般にお盆と言いますと、大体は亡くなられた人がこの世に帰ってくる日と言われ、その後先祖を迎える為に沢山のお供えを用意したり、帰る目印の為に火を焚いたり、と言うことをする地方があります。京都では五山の送り火が大変有名です。その明かりをたよりにご先祖が戻ってきてお盆の期間が終わったら還って行く、という話になっています。



京都の大文字焼き

しかし、一年に一度だけ帰ってくる先祖のために何かをしなくてはならないと言う義務的なものであれば、お盆はその用意だけすればいいのであって、何か宗教的ではないような気が致します。

ここで二つ質問です。

亡くなられた方々はお供えをしてもらうことにより喜んでいらっしゃるのでしょうか？

自分の行うお供えで目連尊者の母のように地獄で苦しんでいる先祖を助けることができるのでしょうか？

落ち着いて考えてみますと、亡くなられた方々は、すでに喜びや怒り、哀しみや楽しみなどを遙かに超越した世界に生れていらっしゃるのです。その世界は、人間の感情から解放された静かな世界で、既に、私たちの知っている世の中とは違うところに行ってしまうれているのです。ちょっとしたことに腹を立てたり、くよくよと悩んだりしているのは、この世に生きる私たちの方です。

亡くなられた人をどうにかしなければならぬと考えるよりも、私たち自身の生き方ははっきりさせる方がもっと大切なことであると思います。

昔は三種の神器と言って、テレビ、洗濯機、炊飯器、を揃えれば幸せになれると言う時代がありました。しかし、今は、自分がもっているものに満足せず、更に物欲を増加させ、テレビは薄型で、スマートTV、4K、8K、とかも出てきて、ビデオ、カメラ、コンピューター、携帯電話、各種ゲーム、等々、新しいものを買い始めるときりがないほど多くのものが満ちあふれています。自分は既に持っているにも拘わらず、更に性能がいいものが欲しい、でも手に入れることができない、買うお金がない、という状況になってきますと、その次は自分に腹を立てずに、今度は周りの人たちに八つ当たりして、思い通りにならないことを他の人のせいにし、自分は正しく間違っていない、自分以外の世の中が間違っていると益々思い込んで行きます。しかし、それこそが逆さまになっている生き方なのです。

亡くなられた方は、「いのちあるものは時が来ればどんなにこの世が名残惜しくても必ず死んでしまう日が来るのですよ。今自分が持っているものに満足し幸せを感じ、毎日を精一杯生きなさいよ」と身を持って教えて下さっているのです。急がなくてもいいことを急いだり、必要のないものを欲しがったりして、本末転倒(さかさま)になって生きている私たちに対して、「それで本当にいいんですか」と問いかけているのです。その問いかけに出会う貴重なご縁の場が、お盆なのです。

8月のお盆法要では、是非一緒にご聴聞致しましょう！

合 掌

オーストラリア開教事務所 所長
渡部重信



スクリプチャークラス生徒増加中



当初、10人ほどで始まった西ゴードン小学校でのスクリプチャークラスでしたが、仏教も選べると言うことで、生徒が増えつつあり、当初使っていた小部屋から、図書館の中へと変更になり授業を続けています。みんな和気藹々、楽しく授業をうけています。合掌



八正道を学ぶ生徒達



平和と開教事務所の未来のための

Sydney Running Festival

シドニーマラソン 参加

2018年9月16日 午前7時出走

●来たる9月16日(日曜日)に行われるシドニーマラソンに、今年も渡部開教使が出走します。

●世界平和と、オーストラリア開教事務所が、お寺となるための未来に向けて走るこのイベントに寄付を受け付けております。

●この一年に一度のイベントに対し、是非開教事務所のために寄付を申し出たいと言う方は、「Peace Run」と明記された上で、下記口座までご入金をして下さいますようお願い申し上げます。

ご寄付受付先口座 (WESTPAC銀行NEUTRAL BAY支店)

ACCOUNT NAME	: HBMA
BSB	: 032 197
ACCOUNT No	: 48 1501
DESCRIPTION	: PEACE RUN

●このイベントに、もし自分も一所に参加したい！とおっしゃる方は是非、このイベントの下記サイトから申込を行って下さい。

<https://www.sydneyrunningfestival.com.au/>

●エントリーできますのは、3.5kmの家族ラン、10kmのブリッジラン、ハーフマラソン、フルマラソンと、選択肢がございますので、自分が挑戦出来るカテゴリーを選んで下さい。一所に走れますことを心より念願しております。合掌



今月のことば

雑毒の善をもつて
彼の浄土に
回向する
これ必ず不可なり
浄土文類聚抄
一七三三～二六三三



Shinran Shonin
親鸞聖人(1173-1263)

*How pointless it is to try
to direct the merit of our
own trained good deeds
in order to be born
in the Pure Land.*





ようこそ開教事務所へ

宮島 崇 & 真記 夫妻

大徳(ひろのり)くん、慈織(しおり)ちゃん

ブリスベン在住の本願寺派僧侶として得度を終えた、宮島崇さんと奥様の真記さん、そして二人の可愛いお子さん達が7月1日のお参りに参加して下さいました！クイーンズランド州は冬休みが一週早く皆さんでキャンパーヴァンを借りてのシドニー訪問でした。お子さん達にとっては記念に残る初めてのお参りでした。



フェイトに参加しました！

7月14日(土曜日)に今年もオーバンのピクニックエリアにて開催されましたJCS(シドニー日本クラブ)主催のフェイトに参加して参りました。寒いながらも良い天気恵まれ絶好のピクニック日よりとなりました。300人以上の方が一堂に集い、日本の食べ物、ゲーム、玉入れ、綱引き、紙芝居、チアリーディング、踊り、等々色々楽しめた一日でした！ 合 掌



ご案内

カウラ戦没者追悼法要

へどうぞお参り下さい！

8月5日(日曜日) 午前10時より

来たる8月5日の日曜日午前10時より、カウラ戦没者墓地にて、74年前、カウラブレイクアウトで亡くなられた皆さんの追悼式典が勤められます。

オーストラリア兵の追悼式典の後行われる日本兵達の追悼式典の後、渡部開教使による仏教での追悼法要が行われます。

是非、このブレイクアウトのあった日にお参りたいと思われる方は、この時間に合わせカウラにお越し下さい。開教事務所へ寄付をすることで、開教使と一所に車で行くことも可能です。ご連絡下さい。合掌



八月の祥月法要

August Shotsuki Memorial Service

Hashimoto, Mikinosuke 橋本 ミノ助 様 (1964)
Iriguchi, Ritsuko 入口 律子 様 (1984)
Tanaka, Yasushi 田中 泰 様 (2011)

上記の方々が8月に祥月を迎えられます。ご家族、或はご縁のございます方は、来月8月12日午前11時に、お盆法要と一緒に勤められます祥月法要にどうぞお参り下さいませ。

ご 懇 念 録

Expression of Dana/Gratitude



この一ヶ月間で、下記の方々より総計 1,220.00ドルのご懇志をご進納いただきました。有り難うございました。合掌

In the past month, donations to the amount of 1,220.00 were offered to the Amida Buddha through the Hongwanji Buddhist Mission of Australia.

The HBMA acknowledges the donors and would like to express our sincere gratitude to the following for their generous donations:

- * Rev Mark Healsmith — Membership contribution for 6 months
- * Rev & Mrs Takashi Miyajima — Membership contribution
- * Mrs Ayako Mitsui Browne — Donation
- * Ms Akiko Minami — Family memorial service
- * Ms Miyoko Horide — Special donation
- * Japan Club of Sydney — Printing honourarium

Thank you very much in Gassho





BULLETIN

42.195
KMSBLACKMORES
SYDNEY RUNNING FESTIVAL
Sunday Telegraph
OFFICIAL SPONSOR

16 September 2018

Run for PEACE &

RUN FOR THE FUTURE OF HBMA



Rev Watanabe will once again join the Sydney Running Festival on 16 September and will run 42.195km for the **WORLD PEACE** and also the **FUTURE OF HONGWANJI BUDDHIST MISSION OF AUSTRALIA!**

If you wish to donate for this event to support Reverend's Run, please make a donation to the following account.

ACCOUNT NAME: HBMA

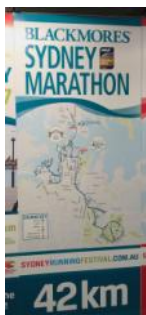
BSB: 032 197

ACCOUNT NO: 48 1501

DESCRIPTION: "PEACE RUN"

Rev Watanabe finished 42.195km with time of 4:10.42 last year. (17/09/17)

If you wish to join this festival, you are most welcome to do so. There are also 3.5km family run, 10km and Half Marathon categories. You may experience to run the centre of Harbour Bridge which is so exciting. Every year, many Japanese visitor runners join this event. Last year there were 33,000 participants in total for this event, and the number of runner from overseas was 3,100. Among this overseas participants, there were 500 Japanese runners which was the biggest number among overseas countries. In Gassho,



Scripture Class on the move! At Gordon West P.S.

Scripture class students in Gordon West Public School are now studying more about the life of Sakya-muni Buddha and his basic teachings.

In Gassho,



Welcome to HBMA

Reverend Takashi and Mrs Maki Miyajima and their two cheerful children, Hironori and Shiori from Brisbane Queensland visited HBMA on 1 July and joined our Sunday service. Rev Miyajima has been visiting HBMA few times but for their children it was their first experience attending Sunday service.

We all hope they enjoyed the story from Rev Watanabe.

In Gassho,



(L - R) Rev Watanabe, Hironori-kun, Shiori-chan, Maki and Takashi Miyajima paid respect to Amida Buddha at HBMA (01/07/18).

We all enjoyed Fete - Japanese Cultural Fun Day event on 14 July at Auburn Picnic Area.

On beautiful Saturday on 14 July, Japanese community held an annual Fete and many people joined this fun event. HBMA members also participated and helped for making everything working smoothly!



(Top Left) Noodle shop, (right) Sydney Soran Dance Troupe (bottom left) Tag a war, (right) making hush brown (14/07/18)



ers, first those with whom we have close karmic relations, whatever karmic suffering they may have sunk to in the six realms through the four modes of birth. Thus were his words."

(“Tannisho” Chapter 5)

This chapter may surprise those who are not familiar with Shinran Shonin’s thought. Even for myself, I was shocked when I first read it. This is because, according to my experience when I was small, whenever I saw Buddhist monks who officiated at services, there was no explanation about the chant they used. So I just guessed they were chanting for the repose of the departed ancestors.

However, when I studied the teaching of the Nembutsu, I finally learnt what Shinran Shonin wanted to say. His thought was totally different from my guess. He was watching all living beings’ lives equally, because he knew we don’t have any power to control other lives. Our world consists of all living beings, and our lives occupy only a part of the whole world. Still each life has to be treated equally, because each single life is a great existence, and all lives including my life and your lives are interdependent.

When we think about where our lives came from, we will realise that our lives depend on a number of other lives before us.

For example, we have **two parents**, and add our grandparent? **A: Four.**

Then how many great-grandparents? **A: Eight.**

When we go back ten generations, how many parents have there been? **A: 1,024.**

How about 20 generations? **A: 1,048,576.**

How about 30 generation? **A: 1,073.741.824 parents!**

We welcomed new Gomonshu-sama two years ago, he is the 25th descendant after **Shinran Shonin** (1173-1263), so roughly 30 generations make 1,000 years, and 33 generations make more than present whole population in the world which is about 7.5 Billion as of today. Isn’t it amazing? I believe that, learning that, you could feel the oneness of all human beings in the world. It sounds like all human beings are related, and this relationship is continuing from the past through the present and the future. We all belong to a single but huge family. This entire earth is a home for all of us. All nations are brothers and sisters.

On the other hand, our lives have to depend upon one another. Human beings are taking other living beings’ lives in order to make their own lives last longer. Also, we need sunshine, air, water, natural gas, etc. Each phenomenon is a great part of our lives. So, we have to appreciate all of them. Shinran Shonin said ‘I do not recite Name (Namo Amida Butsu) for our parents’. He was trying to say that the life of every living being has an equal value. No one is more important than the other. The path of Nembutsu teaches us that we should appreciate everyone, everything, and all living beings. In this way we eventually save our parents and all of our ancestors, too.



We all commemorate our loved ones who have already parted from us at this Obon time, however, as Jodo Shinshu followers, we shouldn’t miss the essence of the Obon. Remember that if we only think about our ancestors at this time, it won’t be a religious observance. Each one of us should be involved in this service, that is, we should think about and realise our own future lives. Because, we are also going to join Amida Buddha’s Pure Land where our ancestors are.

Therefore, Obon is the time to think about our life and our future life, even if we are still young. In our busy everyday lives, the Obon service gives us a good opportunity to think about ourselves, and reflect upon our relatives or friends’ passing. If we could spend some quiet time thinking about our future life, Obon becomes a very meaningful day for each one of us.

As you may notice from the passage I read at the beginning, Shonin said, “I have never said the nembutsu even once for the repose of my departed father and mother”. According to the story of the Obon Sutra, Mokuren offered food for everyone, by his action his mother who was in the hell of hungry demons was relieved. All living beings have been our parents and brothers and sisters in the course of countless lives in many states of existence. So, we shouldn’t be selfish but think about all other lives at the same time.



Namo Amida Butsu

Then, the question is, “Where are we going after our present life?” “Where is our permanent home?” Our life is to be compared to a journey, however we all have a mutual home to return to. That’s why we are able to enjoy our daily lives. This mutual home was prepared by Amida Buddha since he became a Buddha. You will find these words in the Amida Sutra, “**Shojo Zennin Kue Issho** (諸上善人 俱会一处)”. This means, ‘Those who respect Amida Buddha and rejoice in his wisdom and compassion, reciting Namo Amida Butsu are going to meet together at Pure Land.’ Shinran Shonin also told his followers, “Let us certainly meet again at Jodo (Pure Land) without fail.”

On Obon day, we would like to express our sincerest appreciation to our ancestors to let us encounter the teachings and have a precious moment to think about our future life. We are grateful to Amida Buddha for preparing our home to go back to. Let us recite Namo Amida butsu expressing our appreciation to Amida Buddha for letting us have a wonderful journey in this life, and welcoming us to his Land.



In Gassho,
Rev Shigenobu Watanabe

away of the young, and old alike. Therefore, we should all look to our future life and with deep reliance on Amida Buddha say the holy Name."

In the Ullambana sutra, we can find the origin of the Obon service.

I assume many people love their mother the best. One of the ten great disciples of Shakyamuni Buddha, whose name was **Mokuren** (Maudgalyayana) also loved his mother, because his mother loved him very much.

According to the Ullambana Sutra, one day Mokuren was reflecting upon his beloved mother who had already passed away. At that time, a question came to his mind,

"What is my mother doing right now?"

He had supernatural powers, which he had obtained through his hard practice, so he was able to see people who had already died. So, Mokuren used this power to search for his beloved mother and found her.

Alas! - It was a big and sad surprise for Mokuren that his mother was suffering in the hell of hungry demons. It was an unbelievable scene for him. His mother was very skinny and almost just flesh and bone. Mokuren rushed to her, and tried to offer some food, but all of it caught fire in front of his mother. He tried many times but nothing worked. Mokuren had no idea what to do, so, he went to see Shakyamuni Buddha. Buddha listened to the story, and then told Mokuren why his mother had to go to such a world;



Mokuren tried to feed his mother but food was all burnt.

"Mokuren, your mother is suffering right now, because she did something wrong when she was in the human world".

But, Mokuren could not believe it and said;

"She was always a very kind and wonderful mother, what did she do?"

Sakyamuni said,

"I know she was really a wonderful mother, but she was good only to you, not to others. Whenever she had something good, she hid it from others and gave it to you, Mokuren. Your mother never shared things with others."

Mokuren said, **"Is it because of me?"**

"Yes, Mokuren." Buddha replied,

"She loved you too much".

Mokuren then asked,

"What can I do for her?"

Buddha said,



Shakyamuni Buddha



Mokuren



BULLETIN

"There is a way to save your mother. Because she did not share things with others and went to the hell of hungry demons. Therefore, if you offer and share things with others on behalf of your mother, and if they are pleased, then your mother will be all right."

In accordance with Buddha's word, Mokuren prepared more than enough food and shared it with all the Buddha's disciples on the last day of their summer study meeting on 15 August. They ate everything and all the disciples were very pleased. Then Mokuren was finally able to see his mother's peaceful smiling face. Mokuren was very happy as he jumped and danced with joy!

Since then, every year on the same day, the same thing was done. This is the origin of the Obon and the Obon dance.

As I write this article, I wonder if we are still doing the same thing as Mokuren's mother. Whenever we get something good, we don't share it with others, but only share it with our children. From the Buddha's point of view, all human actions are beset with selfishness. So we can't count how many selfish acts we make for the sake of our children, family or loved ones. These actions may commit us to go straight to the Hell of hungry demons. The only way for our salvation is to encounter the Vow of Amida Buddha; to encounter the teaching of the Nembutsu, and live the life of appreciation, embraced in the warm arms of Amida Buddha.

Let us recite Namo Amida Butsu showing our appreciation to Amida Buddha who works all the time for us all. - Namo Amida Butsu -

Please join in for 2018 Obon on Sunday 12 August and listen to the Rev George's Dharma message!



In Gassho,
Rev Shigenobu Watanabe

Dharma message

- Parents -

"As for me, Shinran, I have never said the nembutsu even once for the repose of my departed father and mother. For all sentient beings, without exception, have been our parents and brothers and sisters in the course of countless lives in many states of existence. On attaining Buddhahood after this present life, we can save every one of them.

Were saying the nembutsu indeed a good act in which I strove through my own powers, then I might direct the merit thus gained towards saving my father and mother. But this is not the case.

If, however simply abandoning self-power, we quickly attain enlightenment in the Pure Land, we will be able to save, by means of transcendent power

(Continues on page 3)

BULLETIN

Volume 19 - No. 6
20 July, 2018

Hongwanji Buddhist Mission of Australia

PO Box 292 Lindfield (Sydney)
N.S.W. 2070 AUSTRALIA
Phone : (02) 9403-1256
Mob : 0412 - 396 - 014
Email : hbma@optusnet.com.au
http://www.hongwanji.com.au



Inside This Issue

Let us celebrate Obon Service	1
Cowra Service of Respect	1
Why do we commemorate Obon?	1-3
HBMA news / Marathon, Scripture, Welcome, Fete	4



Let us celebrate HBMA's Annual 2018 OBON SERVICE !

11 am ~ Sunday 12 August 2018



Rev George Gatenby

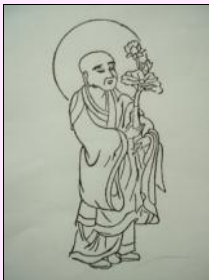
Please come to our O-bon service, in commemoration of all who have gone before us, and show our appreciation to Amida Buddha.

Rev George Gatenby

from Adelaide will be giving the Dharma message in English

and Rev Watanabe will deliver Japanese message as usual.

Those who plan to attend the service, please bring a dish to share with everyone just like Mokuren (Maudgalyayana) did in the Obon story!

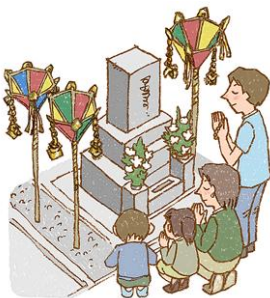


Mokuren



Rev Watanabe

Why do we commemorate Obon ?



Obon is a good time to reflect upon our loved ones who departed before us and show our appreciation to Amida Buddha who let them be born into the Pure Land saving everyone who encounters the teaching of nembutsu.

We all commemorate our loved ones who have already departed from us at this Obon

time. However, as Jodo Shinshu followers, we shouldn't miss the essence of the Obon. Remember that if we only think about our ancestors at this time, it won't be a religious observance. Each one of us should be involved in this service. That is, we

should think about and realise our own future lives. Because, we are also going to Amida Buddha's Pure Land where our ancestors are.

There is a famous Haiku (Japanese 17 syllable poem) which describes our human world as impermanent. It says "Chiru Sakura Nokoru Sakura mo Chiru Sakura (Cherry blossom falls, inevitably all blossoms fall)." There are no exceptions and no one can live this life forever.

As Rennyo Shonin, the 8th Gomonshu, also wrote in his letter: *"We have not heard of anyone receiving human form which lasts for ten thousand years. The course of life ebbs away very rapidly. Can a person preserve his body for a hundred years at the present time? Not knowing whether death will come today or tomorrow, those who depart from us are as countless as the drops of dew."*



Rennyo Shonin

Rennyo Shonin ended his message as follows: *"Thus, we see that what man cannot control is the passing*

(Continues on page 2)



Please join in to the COWRA SERVICE OF RESPECT

5th August 2018 10am~

If you are interested in joining the Cowra Memorial Service which will be officiated on the day Cowra Breakout was happened, you may accompany Rev Watanabe for this one day trip. (Donation apply)

We have few seats left for those people. Please contact HBMA office at (02) 9403 -1256 or 0412 -396 - 014.

In Gassho,

